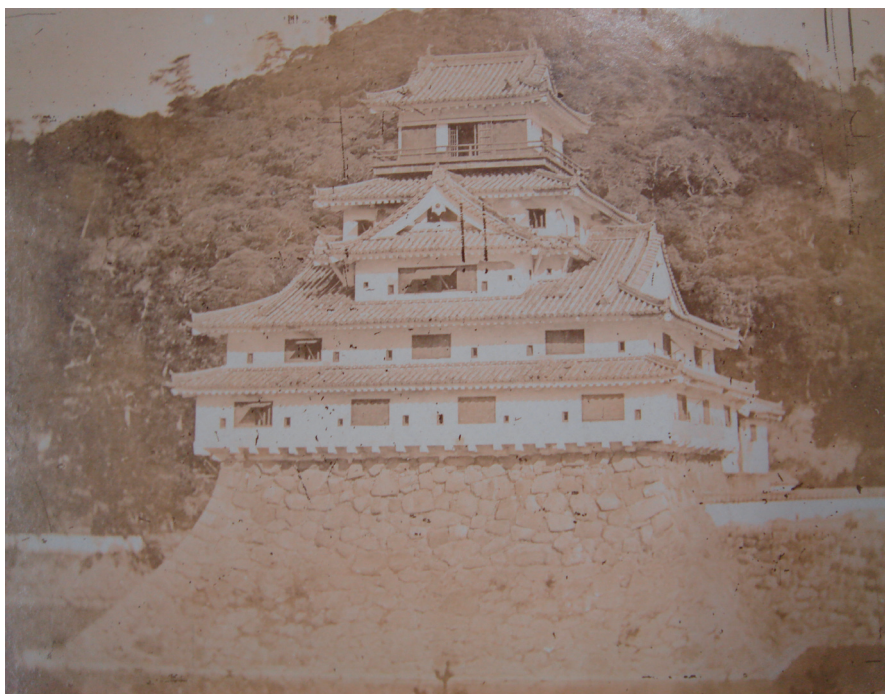


近代のおとずれと城跡



* 吉田樟堂文庫2706「萩城五層楼写真」

解説

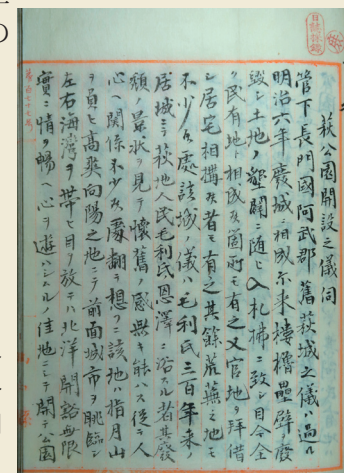
廃藩置県による大名の東京居住にともない、それまでの城館は空屋状態になっていました。1873（明治6）年1月の「廃城令」（「全国城郭存廃ノ処分並兵営地等撰定方」）により、「武士の世」の象徴であった城郭や陣屋が正式に廃止されることになりました。

姫路城や彦根城など、歴史の証徴として文化財的に保存されることになったものもありましたが、多くの場合、天守や櫓などの豪壮な建造物は取り壊され、水を湛えた濠と堅牢な石垣に取り囲まれた広大な敷地のみが往時をしのばせる故地となりました。

城跡は、陸軍の師団設置場所に転用されることがしばしばでした。時代は変われど、軍事拠点として引き継がれていたのですが、一方で民衆に開かれた空間へと変貌を遂げる場合もありました。

「廃城令」によって五層の天守閣（写真左）が解体された萩城跡も公園として生まれ変わることになりました。1877（明治10）年、「高爽向陽の佳地」と評された風致を取り込んだ公園開設にむけた歎願書が内務卿大久保利通宛に提出されました（写真下）。

大名の居館であり軍事的な要害でもあった場所が、新しい時代の訪れを象徴して市民を受け容れる空間へと変貌を遂げるようになったのです。



* 明治期政府布達類214「内務省指令録」。1877（明治10）年9月、県令関口隆吉から提出された「萩公園開設嘆願書」。